

## 編 集 後 記

前号で小山政憲先生御退職のことを記したのであるが、僅か1年にして、御逝去のことを記さねばならないとは夢にも思ってみないことであった。佐藤学長他先生が親しくなさっていた多くの方々から心のこもった追悼文をお寄せいただき編集者としては感謝の念に堪えない次第である。これも、ひとえに、先生が別府大学発展のためになされた多大なる貢献，そして誰からも愛された温厚篤実な御人柄によるものと確信している。

追悼文の中で、西村短大学長が述べておられるように、小山先生の意志を継いで、本学は国際化へ向けてますます発展を遂げつつある。昨年8月には、文学部英文学科、短期大学部英語科15名の学生が姉妹校ハワイ大学で3週間に亘る第6回目のサマーセッションを無事終え帰国，さらに9月には、ハワイ大学より、Diane Pike-Bourne 先生の後を受けてPinky Chandler-Kobayashi 先生が本学へ講師として着任され、学生たちに本場の英語を教えてください。先生には、前任のPike-Bourne 先生同様、本学恒例の英語・英文学会で特別講演をしていただいたうえに、本論叢にも論文をお書きいただいた。今後とも本学の国際的発展を祈るばかりである。

なお、この小山政憲名誉教授追悼号出版に際しては研究出版委員会（委員長、後藤重巳史学科教授）より多大なる御援助をいただいた。改めてここに感謝の意を表す次第である。

（安田・八幡）